

1

しものせき

山口県下関市

地域活性

竹林再生

6次産業化

やまもと しのぶ

山本 忍

～たけのこ愛を国内外に広める！～



筍産地と外国観光客への整備体験



白子筍と筍商品

経緯

○日本で4番目に竹林が多い山口県であるが、手入れをされない竹林が問題となってきた。筍栽培により山口県指導林業士であった先代から竹林を引き継いだことをきっかけに、竹やぶが高品質筍産地として再生し、名産地として認識されるよう普及活動を始めた。

取組内容

- 竹林所有者への高品質筍栽培(京都式)の指導。
- 国内外の観光客への竹林整備体験の受け入れ。
- キッチンカーでの筍料理の販売、筍商品開発・販路拡大。
- 「やまぐち農林漁業ステキ女子」の認定を受け、女性農林漁業者のロールモデルとなるべくマルシェ活動や情報発信等を行う。

活動の効果

- 地区内外で高品質筍生産(京都式)の講師を務めながら、普及にも力を入れ地元で筍生産を始めた人もおり、地域の活気も戻ってきた。
- 外国人の竹林整備体験の受け入れを始め、台湾やフランスから25名の参加があり、日本の情景や筍のPRを行った。
- 大都市圏の飲食店向けに高品質筍を生産していたが、新型コロナウイルスの影響を受け、家庭向けにターゲットを転換し、ECサイトの整備やキッチンカーを導入した。

応募者からのアピール・メッセージ

日本一の筍生産を追求し、筍ビジネスのロールモデルを構築・確立・普及を図り、県内の竹やぶが高品質筍産地として再生し認識され、ブランド化になることを目指す。

下関市松屋上町1745 Tel:083-282-4074

ゆうげんがいしゃ つかさ

有限会社司ガーデン

～ハロウィンキャンドルはコロナの先の希望の灯り～



ハロウィンキャンドルと小学校イベント



かぼちゃの花壇とボタニカルキャンドル

経緯

- 地元の景色が、荒廃農地の増加などでどんどん寂しくなる中、花の販売額も若年層を中心に減少している現状に危機感を持った。
- 花農家ができることとして、観賞用かぼちゃの活用を思い付き、また、花を通じて地元の原風景や賑わいを取り戻したいとの思いから「ハロかぼプロジェクト」を立ち上げた。

取組内容

- ハロウィンかぼちゃと花を活用した地域活性化、荒廃農地の解消、小学生等への情操教育、SDGsへの取組み、廃棄農産物の再利用等の実施。
- 廃棄される下関地域資源(花、クジラ等)を利用したボタニカルキャンドルの開発、販売。
- 昨年、情報発信場所をオープンし、生産者の情報発信、廃棄農産物を再利用した商品の販売等を行う。

活動の効果

- ハロウィンかぼちゃを活用して、市内の小学生、高校生とともにイベントを開催。イベント参加者は10年で延べ3万人を超えた。また、高校生が小学生へ指導するなど情操教育の場としても注目を集めた。
- 情報発信場所で、農産物や加工品を販売することにより、情報発信・交換だけでなく、免許証を返納し買い物難民になりつつある高齢者の買い物場所としての利用も増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

花を通じて地域が笑顔になれる、この地域で稼いで暮らし続けることが地域活性化につながるものと信じている。地域を巻き込んで開催したハロウィンイベントやハロウィンキャンドルが、コロナの先の希望の灯りとなり地域の宝になればと思う。

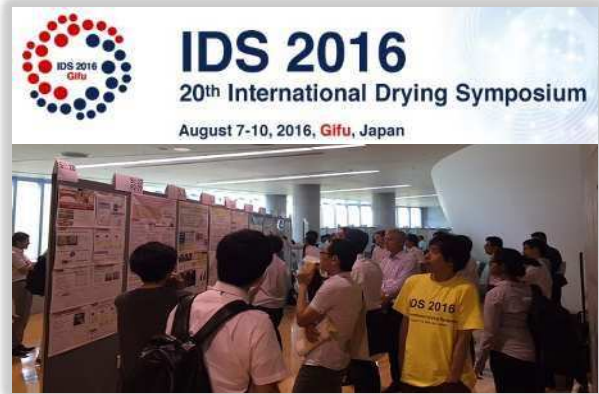
下関市豊北町大字神田上4905-4 Tel: 083-788-1321

株式会社 木原製作所

～乾物プロジェクト地域振興事例を世界に発信～



廃棄花の商品開発体験



国際乾燥学会で事例発表

経緯

- 平成22年、山口市が新たな地域産業戦略の構想を開始したことを受け「乾燥技術」を地域資源として活用し、複数団体とのドライフード商品開発と圏域ブランドの構築を市に提案。
- 平成23年、乾燥食品の開発販売を軸とした国内初の地域振興事業「山口から“Kanbutsu”を発信。」プロジェクトが総務省で採択。

取組内容

- 企画立案、機器技術提供、試作開発、デザイン、販売方法等のアドバイスや商標登録、イベント等を活用した発表方法等は無償サポートし、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレーなど、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。

活動の効果

- サポートした商品は、多様なメディアに取り上げられ、山口市の地域振興の取組や少量多品目の1次産品の認知度を向上させ、多様な産官学の連携を生み出した。
- 本取組をきっかけとして、平成24年に農林水産大臣から機械メーカーでは全国初となる「ボランタリープランナー」任命、平成27年皇太子殿下御視察、「国際乾燥学会（世界42か国300人の研究者が参加）」では本事業が注目を集めた。平成29年「はばたく中小企業・小規模事業者300社」選出。県・露友好協定をきっかけに新商品を展開。

応募団体からのアピール・メッセージ

弊社は乾燥機メーカーの枠にとどまることなく、乾燥加工を通じた6次産業化商品開発支援に取り組むことで、地域産業の振興に貢献することを目指しております。ご来社も大歓迎ですので、お気軽にお声かけください。

のうじくみあいほうじん
農事組合法人
しんゆうかい
神友会

～おもてなしの神角笑顔あふれるヤマシャクの里～



景観作物(シバザクラ)の絵文字



地域住民でおもてなし 農村体験

経緯

- 十種ヶ峰のふもとに位置する神角集落では、神角の自然と地域を守ることを目的として、農事組合法人「神友会」を立ち上げた。
- 集落の夢プランにより当該集落における農業や暮らしの良さを若い世代に伝承するため、学生や子供達との交流など様々な取組を実践している。

取組内容

- 神友会女性部が主催する「サロン」で、集落で採れたお米や野菜を使った昼食を振る舞い、おしゃべりなどの憩いの場所を提供している。
- イギリスや中国等海外の中高生の農家民泊を実施。
- 中学生の農家民泊を実施。農作業体験、農産物の収穫や竹笛、弓矢作りなど、昔の遊び体験を行っている。

活動の効果

- 女性部が主催する「サロン」を月一回開催をしているが、高齢者は開催を心待ちにしており、一人暮らしの人でも毎回参加し、地域の交流が図られている。
- インバウンドの受け入れを行い、イギリスの中学生に餅つき体験、タイからの観光客に浴衣の着付け体験、地元農産物を使った料理を堪能してもらった。言葉が通じず身振り手振りでのコミュニケーションではあったが、楽しい時間を過ごすことができた。

応募団体からのアピール・メッセージ

大学生の農業体験学習、中学生や高校生の農家民泊、都市部の子供達の田舎体験交流などを精力的に行っており、いずれは定住者が増えることを目標にしています。

やまぐちしななぶちいきとくさんひんかいはつかいぎ

山口市南部地域特産品開発会議

～地域愛の育みに貢献する～



活躍する女性事業者の紹介<一部>



地元小学生向けの食育授業

経緯

- 近年、地元産業の衰退・担い手不足・情報化社会への対応不足など地域課題に直面しており、地域一体となって課題解決に向けて取組む組織づくりが求められた。
- 上記背景から、平成27年12月に「食」から地域を活性化するグループ「南部地域特産品開発会議」を発足。

取組内容

- 2週間に1度の頻度で集会を開催し、商品開発の進捗状況や情報共有の場を設け、事業者同士の連携強化を図っている。
- 食育活動・地域学習授業・地域住民向けフォーラムの開催・イベント出展等、食を通じた地域活性化活動を実施。
- 地元小学生の描いた特産品のイラストをモチーフにした包装紙を、道の駅と連携し制作した。

活動の効果

- 同じ地域でも接点のなかった生産者・加工者・販売者との交流が生まれ、約50もの南部地域の豊かな地域資源を活用した多様な商品が誕生した。
- 地元特産品を販売する道の駅の売上も大幅に増加した。
- 特産品開発会議から生まれた商品の総販売合計額は、6,500万円を超えた。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は観光協会や多様な地域コミュニティと連携し、豊かな地域資源を活用した体験プログラムの構築を図り、地域一体となった魅力づくりに貢献していきます。

よしきはたしゅうらくきょうてい
吉敷畑集落協定

～ 棚田とシバザクラの景観で地域の魅力を発信 ～



美しく保たれた農地



集落ぐるみでシバザクラの植栽

経緯

- 700枚以上あった棚田をほ場整備で約140枚にしたが、平地に比べ法面が多く、作業負担も大きかった。
- 高齢化が進行する中、水路の修繕や長大な法面の草刈りが保全活動の大きな課題であったため、地域で一体となり、棚田での農業を支えるため、集落協定として活動を始めた。

取組内容

- 農業者だけでなく、非農家も集落協定に参加。集落ぐるみの共同取組活動で、農道、水路の維持管理、鳥獣害防止柵の設置等実施。
- 法面管理の省力化のため、農地の法面にシバザクラを植栽。「やまぐち棚田20選」である吉敷畑棚田とシバザクラの景観形成の活動を通して、地域の魅力を発信し、交流人口の増加による地域活性化を目指す。

活動の効果

- 地域ぐるみの農地保全活動により、耕作放棄地の発生を防ぐとともに、農業機械や防除の共同化にも取り組むことでコスト削減にも繋がった。
- シバザクラの植栽などの取組で、良好な集落環境が保たれ、交流人口の増加や、地域の伝統的な祭りの維持・継承にも一役買っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

先祖代々から受け継いだ棚田は、集落の自慢であり、誇りである。今後も地域住民が一体となって、農業や農村環境に親しみながら、地域を守る心を育てていきたい。

萩酒米みがき協同組合

～酒蔵と酒米生産者の結によるGI取得～



田植えイベント



発売されたGIラベル表示萩の地酒6本セット

経緯

- 萩阿武地域の酒造会社向けの酒米「山田錦」を地元で供給するため、平成27年から本格栽培を開始。
- 当初は他県でとう精を行っていたが、運搬コスト等の課題やコンタミの不安を解消するため、地元の6酒造会社と11集落営農法人(現在は14法人)で組合を設立し、平成30年3月、地元にとう精工場を整備。

取組内容

- 「酒米生産、とう精、醸造」の全ての工程を組合で行う、「オール萩阿武」ブランドの酒造りに取り組む。
- 「田植え、稲刈り体験」のほか、地酒と地元食材で作った料理で消費者と交流するイベント『やっぱ地酒でnight』を開催。
- 高品質米生産に向けて統一した栽培基準を作り、年3回、「生産者、酒造会社、JA、行政」で生育状況の確認を実施。

活動の効果

- 集落営農法人と酒造会社が一体となって取り組むことで、「オール萩阿武のお酒」としてブランド力強化が図られた。
- 主食用米に比べて収益性が高い酒米を契約栽培することで、農家所得の向上に寄与している。
- 6酒造会社が醸造する日本酒が、「萩」として国税庁から地理的表示(GI)制度に指定され、産地のブランド化の促進が図られた。

応募団体からのアピール・メッセージ

「オール萩阿武」による生産者の顔が見える酒づくりで、地域が一体となって日本一の酒米産地、日本一の地酒産地にしていきたい。



うめかわ ひとき

梅川 仁樹

～わさびの産地化と就農支援により地域に活力～



山口県農業士協会による研修



人・農地プラン実質化協議

経緯

- 存続が危ぶまれた岩国の畑わさびについて、新たな栽培技術を導入することにより生産者の経営安定を図り産地再興を目指した。
- 県、地域のリーダーとして新規就農者の定着を目的とした地域ぐるみの支援体制の構築を目指した。
- 人・農地の問題、高齢化による伝統芸能の継承など様々な問題解決に向け地域の世話役活動を積極的に展開した。

取組内容

- 山口県農林総合技術センターと連携し畑わさびの超促成栽培について検証を続け、収益性の高い栽培技術を確立。
- 山口県農業士協会会長として「山口県新規就農サポーターズ」の設立に貢献。また、地域版である「岩国市サポーターズ」を立ち上げ新規就農者の支援に取り組む。
- 人・農地プラン等の話し合いに積極的に参加し、地域住民と課題や問題解決の共有を図る。
- 伝統芸能である向峠神楽を次世代に継承するため地元の小学生を指導。

活動の効果

- わさびの超促成栽培により1年1作を実現するとともに、わさびの全ての部分について有効利用することにより高い収益性を確保。わさび栽培を目指す農業者が増加。
- 積極的に新規就農者の研修を受け入れ、栽培技術・経営学の習得支援を実施。また、就農した地域で生活する上でのアドバイス等を行うなどにより、定着率が向上した。
- 長年の世話役活動で把握している情報等を共有し、地域の課題解決に向けた方針（人・農地プラン）の作成に寄与。
- 向峠神楽を各地で披露することにより、神楽に魅了された若者の移住に繋がっている。

応募者からのアピール・メッセージ

岩国市内の課題解決の取組を推進。わさびの産地化と新規就農者や農業参入した企業への技術継承。地域を次世代に繋ぐための定住支援など地域を活性化。

かぶしきがいしゃ

株式会社 デナリファーム

～障害者労働問題で耕作放棄地問題を解決！～



起業時



小学生の課外事業



芋掘りイベント

経緯

- 以前から農業に興味があった学生時代の友人であり、元海上自衛官だった二人が令和元年設立。
- 農業で生活するのは無理と諦めていたが、「こうやったら農業で生計をたてられるのでは？」と仮説を立てていくうちに意識も変わりチャレンジに踏み切った。

取組内容

- 限界集落の遊休農地等を利用したイチゴ、サツマイモの栽培に取り組む。
- 地元小学校と農業交流を通じ、食や農業をトータルで体験することによって「将来に夢を持つことの大切さ」を発信。
- 子供食堂への食材提供や職業講話。
- 「農業従事者の減少や耕作放棄地の増加問題」の解決にむけ定年者や、障害者雇用により将来的に貢献できるよう取り組む。

活動の効果

- 雇用しているスタッフはシフトなしの自由出勤制度で、子育て世代中心だが、とても働きやすいと好評。
- 産業管理のノウハウを蓄積し、将来、定年後の年配者や、障害者雇用につなげる基礎を構築。
- 子供食堂の食材提供、小学校への毎月15日のイチゴの差し入れで農業を身近に感じてもらえた。

応募団体からのアピール・メッセージ

継続可能な農業経営の確立を目指し、経営理念の、生産と販売共に安定した売上に努力し、スタッフ・家族・お客・取引先・会社の五方良しを目指して取り組む。